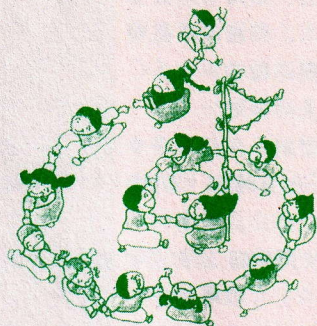


寝屋川市在日外国人教育基本指針

— 主として在日韓国・朝鮮人のための —



1993.1.22
寝屋川市教育委員会

<前 文>

国際連合では、戦後40年の歩みの中で、人権と基本的自由をすべての個人に平等に保障し、人種差別、女性差別などあらゆる差別を撤廃するために、世界人権宣言及び国際人権規約をはじめ数多くの差別撤廃条約や子どもの権利条約など成立させてきた。

それは戦争という異常な状況の下で、数多くの惨禍と犠牲者を出したことへの反省に基づくものであり、真に平和な国際社会を実現するためには、人間の尊厳性を確認し、人権を国際的に認め合うことが平和の基礎として不可欠であるとの認識に基づいている。これは人類共通の認識であり、各国はこの認識のもとに行動しており、人権保障は国際社会の潮流となっている。

本市教育委員会は教育の基本を、憲法及び教育基本法をはじめとする教育関係諸法令、大阪府教育委員会の「市町村教育委員会に対する要望事項」に基づき、人格の完成を目指し、平和的な国家・社会の形成者として心身ともに健康な国民の育成を期して行ってきた。また、人権教育については、「教育方針」に示しているように、部落問題、在日外国人問題、障害者問題、男女平等問題等を基軸に、差別をしない、差別を許さないという実践を身につけた児童・生徒の育成に努めてきた。

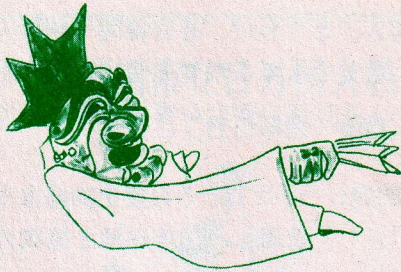
しかし、在日外国人、とりわけ、在日韓国・朝鮮人においては、誇りと自覚をもてる教育を受ける権利が正当に生かされているとはいいがたい事実が存在している。

在日韓国・朝鮮人問題については、その歴史的経緯や社会的背景について正しく認識し、国際理解と協調の姿勢のもとに、解決を図るようにしなければならない。

その歴史を見ると、日本は古くから渡来文化がもたらされるなど、日本文化と隣国は深いつながりをもっている。寝屋川市においても灌漑工事等により低湿地が耕作可能な土地になるなど秦氏の影響が大きかったことが史実や遺跡によっても明らかである。このように、日本の歴史で古代から近世に至るまでの一時期を除き日本と隣国は友好的な関係にあった。しかし、1910年の韓国併合をはじめとする日本の植民地政策は、日本と朝鮮・日本と中国・日本とアジア諸国との民族の間に深い溝をもたらしことになった。

とりわけ、在日する韓国・朝鮮人の多くは、この韓国併合を境に祖国を離れ日本に渡ることを余儀なくされたり、労働力として強制連行された人々とその子孫である。日本の敗戦により、これらの人々の多くは帰国したが、他の人々は、長い間祖国を離れていたことから祖国での生活基盤を失うなど、様々な事情で帰国できなかった。このことが、今日、韓国・朝鮮人の多くが日本に住むようになった原因である。また、このような歴史的背景からつくられた日本社会の中に他民族に対する偏見や排外意識が今も存在しており、このことが在日韓国・朝鮮人の民族的処遇を含め、今もなお生活に影響を及ぼしている。

現在、本市には約3,000人の外国人が在住しているが、その80パーセントは在日韓国・朝鮮人であり、その大多数の児童・生徒が市内の公立学校に在籍している。このことは、戦後、民族文化を取り戻すことを願い設立された民族学校が、閉鎖を余儀なくされ、日本の学校に通わざるをえなくなったためである。このことが、在日韓国・朝鮮人の、学校を含め社会において、



民族の誇りや自覚を損なうことへつながったと認識する。

このような在日韓国・朝鮮人の歴史的・社会的な現実を理解するとき、本市の教育は、人権尊重の精神に徹し、民族差別をなくす教育の推進に努めなければならないことは明らかである。

この問題を解決していくためには、日本人児童・生徒に在日韓国・朝鮮人問題を正しく認識させ、偏見や差別をなくしお互いの人権を尊重し合えるような社会の形成者としての資質を養うことが必要である。また、在日韓国・朝鮮人児童・生徒が自らの自覚と誇りを持って生きぬこうとする態度を育てることが大切である。

そのため、各学校においては、なお一層、人権尊重の精神に徹し、在日韓国・朝鮮人問題に対する指導内容、指導方法について共通理解を深め、すべての児童・生徒に対する適切な教育を推進することが必要である。また、この問題は、単に学校教育だけでなく、保護者・地域住民を含め広く社会全体の理解を得ることも欠かせないことである。

さらに、近年、中国からの帰国児童・生徒の学校への編入、ブラジル、ペルーや東南アジアからの渡日によるその児童・生徒などが各学校に編入してきている。この児童・生徒は、それぞれ国は違っているが、その背景にはそれぞれの国の歴史や生活を背負っている現実があることを認識しておかなければならない。

このような現実に立って、日本が真に国際社会に生きるためには、日本人が人権意識に立って、在日外国人が自らの民族の誇りと自覚をもって生きて行けるような社会を醸成していくことが課題である。

以上の認識に立ち、本市教育委員会は、人権尊重の精神に基づく国際理解の育成と資質の向上をめざし、ここに、在日外国人教育基本指針を定めるものである。

<基本指針>

- (1) 在日韓国・朝鮮人教育は、人類普遍の原理である人権尊重の精神に徹し、民族的偏見や差別をなくすることを基本にし推進するように努める。
- (2) 日本人児童・生徒が、日本と朝鮮の歴史的関係や朝鮮の文化・生活を知り、在日韓国・朝鮮人問題を自らの課題として認識し、解決に向け努力する態度を育てるとともに、民族の違いを認め合う真の国際理解を深める資質を培うように努める。
- (3) 在日韓国・朝鮮人児童・生徒が、民族の文化や歴史を知り、自らの自覚と誇りを持って生きる資質を育てるように努める。
- (4) 在日韓国・朝鮮人児童・生徒の進路については、在日韓国・朝鮮人児童・生徒が希望を持って将来の進路を自ら選択し得るよう進路指導の充実を図るとともに、関係諸機関との連携を図りながら進めるように努める。
- (5) 在日韓国・朝鮮人教育の推進には、教職員自らが韓国・朝鮮人問題に対する現状と課題を正しく認識するよう、研修(研究)の充実に努める。
- (6) 在日韓国・朝鮮人教育の推進にあたっては、関係機関並びに諸団体との連携はもちろん、広く市民の理解と協力のもとで行うことが必要である。

そのために、地域社会において、あらゆる機会をとらえて啓発活動を行なうように努める。

小学校2年生 朝鮮人児童

(サントツキのノレチュムを学習した後)

ぼくはサントツキのおどりがたのしい。とってわたのしいです。ちょうせんのキャンプに行ったことがあつた。それもたのしかつた。

(ホランイじゃんけんをした時)

ぼくは、ホランイじゃん

けんはたのしいと思う。ほかのじゃんけんよりたのしいとぼくは思う。

(ハギハツキョのキャンプファイヤーの残り火に、願いごとを書いた短冊をくべる)

チャンゴがうまくなりますように。

＜課題事項＞

1. 教育行政

- ① 在日韓国・朝鮮人が「本名」を名乗れるような学校や社会の醸成に向け、体制の整備に努める。
- ② 小・中学校における在日韓国・朝鮮人教育を推進するにあたり、人権保障の世界的趨勢を理解するための教職員研修や指導のための教材・教具等資料の充実に努める。
- ③ 在日韓国・朝鮮人が「本名」を名乗れる社会状況を醸成するため、地域住民に対して学習機会を設け、啓発に努める。

2. 学校教育

- ① 在日韓国・朝鮮人の「本名」「通称名」については、「本名」尊重を基本認識とする。
- ② 在日韓国・朝鮮人教育を推進するためには、各学校において、在日韓国・朝鮮人児童・生徒の生活実態を把握し、教育目標の設定に当たっては、寝屋川市在日外国人教育基本指針の趣旨を生かすように努める。
- ③ 各学校においては、在日韓国・朝鮮人児童・生徒が自らの自覚と誇りを高めるとともに、日本人児童・生徒が相互の立場を理解し、真に国際理解を深め

小学校5年生 日本人児童

運動会は、5・6年生でカンガンスーレをした。ぼくはお父さんにいいこを見せたいからちゃんとした。

ちょっと失敗したけど、ぼくはそのまま続けた。もう少しだからがんばろうと思った。「ゆめのかけ橋」は、ぼくは「波の役」だった。練習はいたかったけど、当日はいたくなかった。

さいごに「カンガンスーレ」と言ったら、かん客からはくしゅがきた。お父さ

んもくしゅしてくれたかなーと思った。ぼくの弟はじっとぼくのこを見てくれた。お父さんも、お母さんも、おばあちゃんもじっとぼくの動きを見てくれた。

運動会が終わって帰ったら、お父さんとお母さんがやさしい声で、「よくがんばった、カンガンスーレはすごくよかったでー」とぼくに言ってくれた。おばあちゃんも言ってくれた。

るよう指導計画を作成し、全教職員が一致協力して実践していく推進体制を図るように努める。

- ④ 各学校での学習内容の取り扱い、韓国・朝鮮と日本の歴史的経緯並びに韓国・朝鮮の文化・生活が正しく理解されるよう計画的・系統的に行なわれるよう配慮する。
- ⑤ 各学校では、日本人児童・生徒に対して、在日韓国・朝鮮人児童・生徒が日本の学校に通うようになった歴史的経緯を正しく教えるとともに、在日韓国・朝鮮人児童・生徒には、自らの自覚と誇りを培い、ともに生きる集団の育成に努める。
- ⑥ 在日韓国・朝鮮人児童・生徒自らの自覚と誇りを高めるための学校での民族クラブの取組や民族が集う場・日本人と朝鮮人との交流等の充実に努める。また、その運営については広く在日韓国・朝鮮人保護者の理解を深めるよう配慮しなければならない。
- ⑦ 在日韓国・朝鮮人児童・生徒の進路指導については、実態把握に努めるとともに児童・生徒が自らの

中学校1年生 朝鮮人生徒

僕は朝鮮人です。入学式のとき、1年生でただ一人、朝鮮学校出身だから、みんなより緊張は大きいものだった。例えばクラスのみんが友達になってくれるか、「K」という本名宣言をしてよかったのかどうか。外国人である僕とみんなは仲良くしてくれるのだろうか。

そのときの僕の気持ちは、とても複雑なものだった。でも5組に少しでも友達がいることを思うとほっとした。やがて緊張や不安が一杯だった入学式も終え、この一年間の幕を開けることになった。

そんな入学式の緊張もうそのように、今ではしゃべったりする相手は数多くい

る。友達も月日が経つにつれ増えた。クラブの友達、遊んだりする友達、しゃべったりするだけであんまり遊んだことのない友達、様々いる。もっとよい友達を作っていきたいと思う。

去年度、姉が本名宣言をしたとき、僕は「なんで本名宣言してん」と言ったことがあった。でも答えてはくれなかった。でもその理由は自分で気付いた。本名宣言はとても難しいことだと思った。本名宣言することによって、朝鮮人と言うことを自覚し、誇りに思うということだ。

これからも朝鮮人としての誇りを持って生きていきたいと思っている。

進路を自ら選択できるよう学力を身につけさせるとともに、進路や就職の門戸が開かれるべく関係機関に働きかけるよう努める。

⑧ 在日韓国・朝鮮人教育の推進には、教職員が人権意識をもとに、韓国・朝鮮と日本の歴史的経緯を理解し、国際理解に立った資質を身につけるよう研修の充実に努める。

⑨ 学校において、在日韓国・朝鮮人教育の具体的実践ができるよう資料収集・教材の作成等の推進に努める。

3. 社会教育

① 図書・資料の整備を行ない、市民啓発に資するよう努める。

② ハングル講座の育成に努める。

③ 在日外国人の日本での生活向上になるような学習機会の提供に努める。

中学校1年生 日本人生徒

今まで一番努力したのは、朝鮮のことで調べたことです。クラス全員で、朝鮮のことの新聞記事を集めたり、図書館に行って調べたり、朝鮮で食べているもの、着ているものなどはしからはしまで探って、調べていきました。

歩いている人にアンケートを取ったり、朝鮮にゆかりのある神社にいて、写真を撮ってきた班もあり、

みんなすごく細かく調べていて、すごく分かりやすかったです。私よりみんなのほうがずっと努力しているように思いました。……

もう一度私に、日本は朝鮮に何をしたか！朝鮮の人々の心の中をもう一度考え直させるような気がしました。朝鮮人だから、日本人だからという前に、一人の人間として考えていくべきだと思います。



民族が集う寝屋川ハギハッキョ

在日朝鮮人児童・生徒が、民族の自覚と誇りを高めるために、朝鮮人同志が出会い、学び合う場として、1986年以来毎年ハギハッキョを開催しています。

ハギハッキョ ハギハッキョ ハギハッキョ
하기학교とは朝鮮語で、하기(夏期) 학교(学校)という意味です。在日朝鮮人の子ども達が集まる夏の学校です。在日朝鮮人保護者や、日本人教職員も参加します。

ソンセンニム
산생남(先生)の指導による朝鮮語の挨拶や歌、ハングルの学習、朝鮮の遊びなどを通して、民族の心に触れ、仲間としてのきずなを強め、楽しい2日間を過ごします。例年100名を超える参加者があります。



1993年8月 寝屋川ハギハッキョ

